

5位 「健康長寿のつどい」開催 各地区でフレイル予防（6月～）

「人生100年時代」を迎えた今日、健康寿命を伸ばし、元気で生き生きと暮らすことが重要となっていることを踏まえ、「健康長寿祭」を一新しました。新たに「健康長寿のつどい」へと名称を改め、対象年齢を75歳以上から65歳以上に引き下げて、各地区で区長会を中心とした実施委員会が開催しています。内容も健康の維持や介護予防に重点を置いたものへと変更し、フレイル予防や健康体操、落語や歌など、工夫を凝らしたメニューが用意され、参加者は楽しみながら健康の大切さを学んでいました。



6位 石塚橋の完成・森林基幹道剣ヶ岳線の開通（6月、10月）

平成27年から架け替え工事を進めてきた石塚橋が6月に完成しました。市道瓜生・石塚線は、国道8号福井バイパスと市の工業団地「古屋石塚テクノパーク」を結ぶ重要路線です。旧石塚橋は、供用開始後47年が経過し、落橋につながる損傷が確認されるなど、修繕による機能回復が困難な状態でした。

10月には、平成10年度から整備を進めてきた森林基幹道剣ヶ岳線が、21年の工期を経て全線開通となりました。坂井市丸岡町山竹田から剣ヶ岳、刈安山の中腹を縦走り、牛ノ谷までを結ぶ林道で、総延長は22.3kmです。



7位 議員定数2人削減決定（6月）

市議会議員の定数を現在の18人から2人削減して16人とするため、6月定例議会で「あわら市議会議員の定数を定める条例」を改正しました。定数削減に向けては、これまで議会で議論を重ねるとともに、議会報告会で多くの市民からの意見を聴きながら検討を進めてきました。この議員定数は、次の一般選挙（改選時）から適用されます。



8位 「金津創作の森美術館」盛況

「ちはやふるの世界～末次由紀原画展～」が、4月に「聖地あわら篇」として金津創作の森で開催されました。日本海側初ということもあり、県内外から大勢のファンが訪れ、1万人を超える来場者がありました。

また、以前にも金津創作の森で展覧会を開催している蛭川実花さんとキルト作家である母・宏子さんのコラボレーション展「蛭川実花・蛭川宏子二人展—写真とキルトが生み出す極彩色の世界—」が7月に開幕し、2万4000人の来場者を数えるなど、こちらも大きな話題を呼びました。

金津創作の森は、より分かりやすく親しみやすい施設とし、また県内外へ知名度の向上を図るため、10月に「金津創作の森美術館」と名称を改めました。



9位 休校利活用進む

波松・吉崎地区で休校となっている両小学校の利活用について、地域の皆さんと検討を進める中、小学校を拠点とした地域活性化やにぎわいづくりに取り組む一般社団法人「蓮如の里吉崎」が3月に、「なみまち倶楽部」が4月にそれぞれ設立されました。

7月には波松地区で校舎の一部を改修した飲食店「なみまち CAFE」がオープンし、吉崎地区ではまち歩きイベントなどが開催されています。

新郷地区でも検討委員会を中心に利活用について協議を重ねられていて、地域住民が主体となった「新郷小学校を考える会」の活動がスタートしました。



10位 「細呂木製鉄遺跡」整備（10月）

あわら市指定文化財（史跡）「細呂木製鉄遺跡」が、10月に保存施設及びミニパークとして整備されました。この整備は、地元有志で立ち上げた「たたら製鉄保存会」によるものです。

今後は、地域と連携を図りながら観光資源一つとして、また子どもたちの製鉄実習や製鉄文化の歴史を学ぶ学習の場としての活用が期待されます。



2019年 あわら市 10大ニュース

～令和最初の年もいろいろなことがありました！～

1位 加速する北陸新幹線・芦原温泉駅周辺整備

令和5年春の北陸新幹線県内延伸に向けて、高架橋が次々とつながるとともに、加賀トンネルや柿原トンネルが貫通、さらには新幹線芦原温泉駅建設工事も始まるなど、全線で工事が急ピッチで進められています。

また、福井県の北の玄関口となる芦原温泉駅西口広場の外観デザインイメージがまとまり、立体駐車場についても実施設計を進めています。あわら市の顔が、市民も来訪者もともに集い、憩える「和心あふれる賑わい空間」へと生まれ変わろうとしています。



2位 国道8号県境部の4車線事業化決定（4月）

平成30年2月の大雪で約1500台の車両が立ち往生した国道8号では、福井・石川県境部における4車線の事業化が決定し、5月31日に県の都市計画決定と変更に着手することを求める手交式が行われました。一日も早い事業着手に向けて、市としても要請活動を強化していきます。



3位 「まち・むらときめきプラン」による集落活動活発化

人口減少や少子高齢化が進み、各集落のコミュニティ機能などが低下するなか、市では、市内の全129集落ごとに現状や課題を取りまとめた「集落カルテ」を基に、集落活性化の支援策を示した「まち・むらときめきプラン」を3月に策定しました。

今年度から創設した「集落ときめき活動事業補助金」には、22集落から25事業の申請があり、老人会の地区連携による寄席の企画や休耕田を活用したコスモス栽培の取り組みがスタートするなど、各集落で活発な活動が見られました。

また、「まち・むらときめきセミナー」と題し「防災に強い集落づくりセミナー」や「健康づくりセミナー」を開催するなど、集落での主体的な活動や地域の担い手育成などを支援しています。



4位 国際的な感幸地^{かんこうち}に向け「観光振興戦略」策定（4月）

観光交流人口や市内での観光消費額を増加させ、観光による経済波及効果を市内全域に波及させるため、観光政策の道しるべとなる「あわら市観光振興戦略」を策定しました。

戦略のコンセプトである「和心あふれる国際的な感幸地」の「感幸地」には、住む人も訪れた人も幸せを感じることができる土地という意味を込めています。令和5年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業を見据え、福井県の北の玄関口として、これまでの関西圏・中京圏に加え、関東圏や海外からの観光客を迎え入れるため、7つの戦略のもと52の事業を計画的に実施し、「和心あふれる国際的な感幸地」へと発展させます。

